

FRJ News Letter

Vol.1. Dec 2015

Contents

特集：

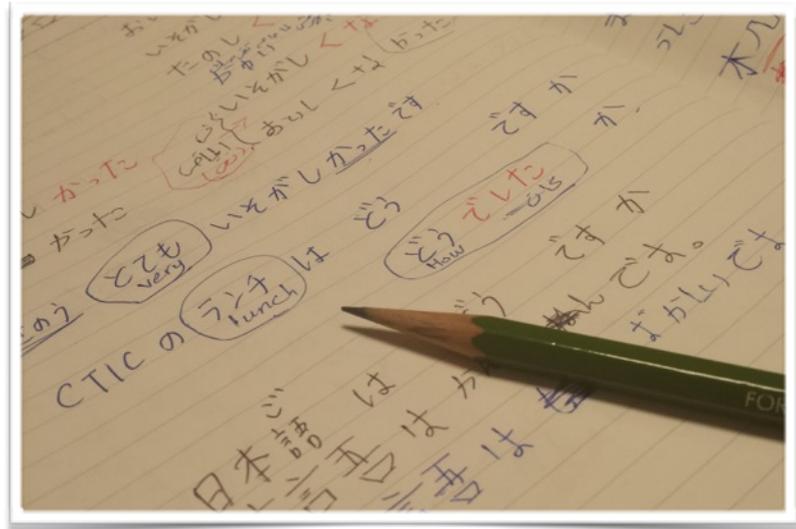
地域での難民受け入れ

—難民の孤立を防ぐ—

最近の活動

ニュース Pick Up

シェルター通信 ほか



日本語を学ぶ難民の方の学習ノート

地域での難民受け入れ —難民の孤立を防ぐ—

「難民はどこに暮らしているのですか?」「難民とどこで知り合うことができますか?」といったご質問をいただくことがあります。

昨今、日本に逃れてくる難民たちは、コミュニティをもち集住している場合もありますが、それぞれが個別に暮らしている場合も増えてきています。過去の辛い体験から、うつ病やPTSDなどの精神疾患に苦しむ場合もありますが、それぞれが新しい場所で新しい生活を築くための努力をしています。

しかし、異国の地でひとりでゼロベースの生活を始めることは容易なことではありません。流暢な日本語を身につけ、日本社会へ適応し、生活を築いていく人もいますが、孤立を深め、何年も日本で暮らしていても日本人の友達が一人もいないという人も珍しくはありません。

その1つの要因として、難民が抱える特有の事情があります。難民申請手続きは、1次で不認定が出た場合、異議申し立てを行い結果を待っていると、平均して3～5年かかると言われています。迫害を逃れた難民も、家族を置いて単身で来日するケースがほとんどです。家族と何年も離れて暮らしている人、身内が一人もいない人など、日本社会で暮らせども、慣れない外国での生活、生活の困窮、長期化する難民認定審査の過程で心身共に疲労しています。ときに「絶望」とも言える不安と孤独を抱え込んでしまう人も少なくはありません。そのため、難民認定手続きが終了した後、思うように生活の自立、定住が進まないこともあります。

トラウマ

異なる文化・言語

将来への不安



地域での受け入れと難民の社会統合

難民の孤立を防ぐための重要な要素に、「地域での受け入れ」があります。日本で難民として認められるまで、孤独で先の見えない不安定な生活を送る多くの難民にとって、地域に受け入れられ、そこでの自身の居場所を見つけられることは、大きな励みになり、日本社会への統合にも繋がります。専門家や実務家の支援が必要な場面もありますが、難民の日々の生活基盤は、住まいを構えた「地域」にあります。人的交流が繋がりと安心を生み、難民の希望を支えます。また、言葉や文化の壁を乗り越えていくきっかけとなることもあります。



中野区でのFRJの取り組み

FRJでは、市民の方に難民への理解を深めていただきながら、難民との交流や関係作りに取り組んでいます。今年度、地域イベント「なんみんカフェ」を2度にわたり企画してきました。イベントは、FRJの事務所のある中野区内のいくつかのコミュニティカフェと協力し実施しています。各回、難民をゲストに迎え、市民の方に難民の生の声を聞いていただき、ざっくばらんな対話の場をもっています。また、「食」を通して難民問題を身近にしてもらため、難民に関連するお料理をゲストと参加者で囲みます。

第1回目は、9月に高円寺の「ウタカタカフェ」で、第2回目は、11月に中野の「ウナ・カメラ・リーベラ」で開催しました。カフェの常連さんや地域住民の方、地域の市民団体、学生の方など20名ほどが参加しました。中東やアフリカの難民をゲストに迎え、母国の文化や内情、また自身の来日経緯や日本での生活、今後の展望などを参加者に共有しました。会場からも多くの質問が飛び交い、閉会後も残って交流を深める方もいらっしゃいました。

今後も、FRJは、地域の方と協力しながら、市民ひとりひとりが難民を一人の人間として理解出来るような対話の場を作り、市民社会でのより良い難民受け入れの基盤を作るべく、取り組みを進めていきます。

*本事業は、草の根市民基金・ぐらんからの助成を受けています。



なんみんカフェVol.2でカフェの方が準備してくださった「なんみんプレート」。アフリカからの難民がゲストであるのにあわせ、アフリカ料理をヒントにメニューを考案していただきました。



なんみんカフェVol.1の様子。20名ほどの方が参加され、活発なやりとりがありました。



なんみんカフェVol.1では、準備にあたりカフェの方がFRJシェルターを訪問し、難民が作った中東料理を試食。レシピを参考にイベント当日料理が提供されました。

最近の活動

*難民申請者のための無償歯科治療プロジェクトは6年目を迎えました！

難民認定の結果を待つ間、困窮した生活を送るも健康保険に入ることが出来ず、十分な医療を受けられない難民申請者は少なくありません。FRJは、2010年2月より、鶴見大学、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）との三者連携のもと、「難民申請者のための無料歯科治療プロジェクト」を実施しています。2014年12月末時点で、33の国と地域（無国籍1名を含む）153名の難民申請者が治療を受け、診療回数は1208回に上り、急患にも対応してきました。治療は、UNHCRの協力のもと、難民申請者から相談を受けたFRJ加盟団体が紹介状を作成し、鶴見大学歯学部附属病院で提供されています。治療費は鶴見大学歯学部附属病院が全額負担し、病院までの交通費などは患者本人あるいはFRJが負担しています。また、株式会社レバスト様のご協力により、鶴見大学記念館の大学食堂でサポートランチという特別メニューを毎月約1週間販売されており、売り上げの一部をご寄付いただいています。

難民が、日本で安心して適切な医療にアクセスすることは、費用の問題だけではなく、言語の壁や孤立した生活環境、文化・慣習の違いなど、様々な理由によって容易でないことが多々あります。引き続き三者連携を深め、定期的な実施体制の見直しをはかりながら、全国初の本プロジェクトを実施していきます。

*全国難民支援団体交流会議の開催

FRJは、全国15の難民支援団体で構成されていますが、各団体を通じて、地方を含め各地で難民支援に取り組む市民団体や実務家・研究者との繋がりも持っています。そこで、こうしたネットワークを最大限に活かし、日本でのより良い難民保護を目指し難民支援全体の底上げにも取り組んでいます。今年度は、15団体での定期会合に加え、全国規模の会議・ワークショップを2回開催することを予定しています。2015年度第1回会合は、10月30日・31日に都内で開催されました。首都圏のみならず、名古屋・大阪・九州からの参加もあり、総勢約40名の市民団体や実務家が集いました。

*本事業は、独立行政法人福祉医療機構（WAM）助成事業として、認定NPO法人難民支援協会からの委託を受け実施しています。

*三者協議会開催、空港での庇護希望者の保護

FRJは、法務省入国管理局、日本弁護士連合会（日弁連）と2012年2月10日に締結した覚書に基づき、「難民問題に関する三者協議会」を定期的に開催しています。2015年度は、11月末現在、同協議会の下での作業部会を含め2回会議が開催されており、今後も協議をつづけていきます。

また、上記覚書に基づき、2012年4月から2014年3月まで「空港において難民としての庇護を求めた者に係る住居の確保等に関するパイロットプロジェクト」を三者連携のもと試行してきました。空港にたどり着いても、難民申請の方法が分からず送り返されてしまう場合や、収容されてしまう場合があります。そこで、FRJは、対象となるケースに対して住居（シェルター）を提供し、法的手続きの支援（リーガルサービス）や個人のニーズに応じたソーシャルワーク、医療や教育へのアクセスの確保などを実施しました。難民申請手続きに関する支援では、日弁連と協力し、必要なサポートを行いました。本取り組みは、パイロットプロジェクトを終えた後、成田空港のみならず羽田空港も対象として引き続き同様の取り組みが継続されました。また2015年に入り、関西、中部の2空港を含む全国4空港を対象が決定しました。FRJは、今後も三者連携のもと、本取り組みを継続・促進し、難民の保護についてさらに知見を蓄積できるよう努めていきます。

*本事業は、カリタス・ジャパンからの助成を受けています。



難民申請を知らせるポスターを空港に設置しています。

最近の日本の難民に関する政策の動き、メディア掲載情報をお伝えします。

【各種発表】

- 第5次出入国管理基本計画発表（9/15 法務省発表）
- 「難民認定制度の運用の見直しの概要について」（9/15 法務省発表）
- 第三国定住難民（第六陣）に対する定住支援プログラムの開始（10/13 外務省発表）

【メディア掲載】

- "Japan accepts just 11 asylum seekers from record 5,000 applying in 2014" (3/11 ロイター通信)
- 「難民申請者への住居提供を拡充 法務省、日弁連、NPO法人が支援拡大」（6/22 産経ニュース）

シェルター通信

FRJは、カトリック東京大司教区の難民用緊急シェルター「ひかりハウス」の運営を行っています。ハウスは、イエズス会の光延一郎神父のご実家で、東京教区に寄贈されたものです。共用のリビングとキッチン、シャワールーム、トイレがあり、難民それぞれの個室が完備されています。現在、食糧については、セカンドハーベスト・ジャパンからの支援を受けており、その他、日用品のご寄付をいただくなど、皆様からご支援をいただき、運営されています。

現在、ハウスには、3名の難民が暮らしています。年齢も出身国も異なる彼らですが、料理の得意な方や掃除を厭わない綺麗好きな方など、個々を尊重しながらも時に助け合い、新しい土地での生活に馴染んでいっています。

FRJインターンの声

ランチを一緒に食べたり、「〇〇に行くにはどうしたらいいのか」、「今の日本語あっている?」と質問されたりと、彼らの生活の一コマに関わらせていただくことも少なくありません。今後の生活への不安や、現状への不満がないはずなどないにも関わらず、穏やかに笑顔を見せる彼らのたくましさや忍耐強さというものに、その度に感服させられています。

FRJでは今後ともシェルターの運営に取り組んで参ります。

今後とも、皆さまのご理解とご支援をどうか宜しくお願いいたします。



難民へのご支援
をお願いします

クレジットカードで

<http://frj.or.jp/donate>

銀行振込で

三菱東京UFJ銀行 目黒支店

普通口座0072924

「特定非営利活動法人 なんみんフォーラム」

郵便振替で

口座記号番号：00180-0-652128

特定非営利活動法人なんみんフォーラム